

光大学、東京工芸大学

- D) 応募方法・・・芸術系(実技部門)の大学を通じて以下の書類を提出
書類:①奨学生願書②学科専任教官の推薦書③成績証明書、
- E) 募集期間・・・平成 19 年 5 月 9 日～平成 19 年 5 月 20 日当日消印有効
- F) 応募状況・・・大学生 13 名 大学院生 48 名
- G) 選出・・・応募書類を基に奨学生選考委員会にて審議選考の上、理事会で決定
選考委員会
- 開催日 平成 19 年 6 月 2 日(土) 13:30 ～ 15:00
 - 出席者 久谷政樹委員長 井上隆邦委員 徳山豊委員
野呂芙美子委員 宮本武典委員 以上全員出席
 - 選考方法
【大学生】各委員より 1～2 名ずつ選出し、満場一致で候補者 1 名を選出した。
【大学院生】参考資料VHSの上映(3 名)後、各委員より 4～8 名ずつ選出したが、いずれも過半数に達しなかったため、2 票獲得した応募者の中で投票を行い、過半数を超えた候補者 2 名を選出した。
- H) 奨学生決定 第 28 回理事会、評議員会において決定
- 【大学生奨学金給付者】 給付金 30 万円
松井 えり菜(まつい えりな)
多摩美術大学 美術学部 絵画学科 4 年(23 歳)
(選考事由)視覚的なインパクト、絵画のテクニックともにずば抜けている。学生でありながら、既に国際舞台で華々しく活躍しており、日本の新世代アーティストとしておおいに将来が期待できる。また、志望理由に「今後は自分自身でマネージメントもおこない、海外のギャラリーや美術館とも積極的に出展交渉をしていきたい」と語るなど、アーティストとして自立したいとする意欲に、国際経験に裏打ちされたスケールを感じた。
 - 【大学院生奨学金給付者】 給付金 各 50 万円
齋藤 悠紀(さいとう ゆうき)
東京造形大学大学院 造形研究科 造形専攻 2 年(24 歳)
(選考事由)図鑑的な昆虫の描写が、古典的な版画との印象を与えるが、「生と死」という普遍的なテーマを、制作技法と上手くバランスを取りながら追求している姿勢に好感が持てる。また、余白を活かしたモノクロームの画面からは、東洋的な美的感覚を感じられ、既に国際的な版画コンペで入賞を重ねていることから、今後、作家としての将来性も期待できる才能である。
 - 今村 綾(いまむら あや)
京都精華大学大学院 芸術学研究科 芸術専攻 2 年(24 歳)
(選考事由)画面に盛られたインクに意図的に亀裂を施す独自の版画技法や、深み

のある重厚な色彩、シャープ絵画理論に、昨今のけたたましいアートシーンではあまり見られなくなった真摯な抽象絵画への追求を感じさせる作家である。既に関西の有力ギャラリーで個展を重ねているが、今後ますます飛躍を期待したい。

1) 奨学金給付・・・通知後、本人の口座に、7月と10月の2回に分割して給与

以上

2. 第15回助成顕彰事業(寄附行為代4条(1)(3)(5)) 【9,775,880円】

○実施概要

A) 対象、受賞者数、給付金

(ア) 日本文化藝術奨励賞 2名 奨励金1件100万円

- 日本伝統文化奨励賞
- 日本現代藝術奨励賞

芸術・伝統文化の活動(研究)において、すぐれた才能・能力が認められ、今後、更なる活躍が期待される者を対象とする。年齢・国籍は問わない。受賞1年後に活動の近況報告を行う義務がある。

(イ) 日本文化藝術振興賞 2名 賞金 1件150万円

- 日本伝統文化振興賞
- 日本現代藝術振興賞

優れた芸術・伝統文化の活動(研究)により、芸術・伝統文化の振興、また、新しい方向性を示唆するなどの著しい功績をあげた者。あるいは伝統文化、伝統芸術の維持伝承および振興を支えながら、顕彰の対象として顧みられることのなかった各分野(各職能分野等)について注目し、隠された優秀な人材を発掘し顕彰する。

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金 2名 助成金 1名100万円

日本の伝統文化の技術を修得、または調査研究をするために日本に留学・滞在しているか、6ヶ月以上の留学・滞在を予定しており、日本の芸術・伝統文化への理解、国際交流、普及に貢献することを期待される外国人。原則として40歳未満。受給後に活動の近況報告を行う義務がある

B) 応募方法

(ア) 日本文化藝術奨励賞・・・指定の応募書類(申請書、推薦書)と資料

(イ) 日本文化藝術振興賞・・・指定の応募書類(推薦書)と資料

(ウ) 外国人留学生・研究者助成金・指定の応募書類(申請書、推薦書2通)と資料

※資料は5点以内(ビデオ、掲載紙、ポートフォリオ等)

C) 募集 告知、応募要項の送付

告知 :平成19年9月 本財団のホームページ

広報活動: ちらし、ホームページによる告知、専門誌・関係誌にリリース、

発送先 : 美術館、博物館、大学、大使館、海外日本文化研究機関、評論家、助成顕彰受賞者、会員等、資料請求者 発送件数 約1200件

D) 受付期間 平成19年11月1日～平成19年11月30日 当日消印有効

E) 応募状況 53 件

第 15 回日本文化藝術奨励賞

日本伝統文化奨励賞…………… 7 件

日本現代藝術奨励賞……………15 件

第 15 回日本文化藝術振興賞

日本伝統文化振興賞…………… 4 件

日本現代藝術振興賞…………… 8 件

第 14 回外国人留学生・研究者助成金……………19 件

F) 選出・申請書、推薦書、資料を基に助成顕彰事業選考委員会にて審議選考の上
理事会で決定

選考委員会

➤ 開催日 平成 19 年 12 月 26 日 11:00 ～ 14:00

➤ 出席者 栄久庵憲司委員 榎本了壺委員 葛西聖司委員、金子賢治委員、
木戸敏郎委員、酒井忠康委員、芳賀徹委員(座長)

➤ 書類出席者 中村昌生委員

➤ 欠席者 大島賛都委員

➤ 選考方法

○事前に選考委員に全応募者の資料の要約を送付し、閲覧を依頼。

○選考委員会当日、応募者から提出されたビデオテープ、CD、ポートフォリオ、論文集、
カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧した。

○各委員から応募者に対する意見(当日出席できない中村昌生委員から事前に
提出された選考意見を含む)を出し合い、委員長が意見を集約し各部門ごとに
選出候補者を絞り、さらに審議し各委員の同意の上で、選出者を決定した。

G) 受賞者の決定 第 29 回理事会、評議員会にて決定

○第 15 回 日本伝統文化術奨励賞 賞金 100 万円

常磐津巴瑠幸太夫(44 歳)常磐津節演奏者／邦楽家

推薦者：常磐津一巴太夫((社)関西常磐津協会理事長)

事由：実力も抜群であり、若手実力派として将来を嘱望されている。常磐津を
更に盛り立てて行く重要な存在と期待する。

○第 15 回 日本現代芸術奨励賞 賞金 100 万円

大井 浩明(38 歳)ピアニスト、歴史的諸鍵盤楽器演奏

推薦者：自薦

事由：クラシックは勿論、現代曲でも抜群のテクニックであり、曲の読み込
みにも優れている。また、歴史的鍵盤楽器の奏法を復元する実験的
な試みにも積極的であり、幅広い音楽活動を行っている。

○第 15 回 日本伝統文化振興賞 賞金 150 万円

四世 若山 胤雄(79 歳)江戸里神楽 囃子・舞

推薦者：更科 安春(株式会社ハイラム 取締役)

事由：技術力は若い頃から抜群であり、現在も素晴らしい技術である。歌舞伎・能などに比べ、光りが当たり難い芸能の分野でありながら、高い技術レベルを保つ姿勢は、本財団の主旨に合っている。

○第15回 日本現代藝術振興賞 賞金 150万円

河口 龍夫(67歳)倉敷芸術科学大学教授、現代美術

推薦者：川崎 晃一(兵庫県立美術館 収集管理グループリーダー)

事由：日本現代美術における、70年代以降の先導者の一人である。関係性という概念がテーマであり、近年は特に環境性、「種子」を表現活動のキーワードに活躍している。本年は名古屋・神戸での大規模な個展を成功させ、精力的に活動を続けている。

○第14回 外国人留学生・研究者助成金 一人につき賞金 100万円

ツン スインイ(30歳)女 国籍:台湾

京都造形芸術大学大学院博士課程

専門分野：芸術専攻(グラフィックデザイン)

推薦者:羽生清(京都造形芸術大学大学教授)、田名網敬一(グラフィックデザイナー)

事由：中国の伝統的であるだまし絵の構造を、自分の中に受け止め、独創的な作品を創り出し、将来有望な作家と期待する。

趙 賢貞(28歳)女 国籍:韓国

現職：東京芸術大学大学院博士課程

専門分野：文化財保存学専攻

推薦者：上野勝久(東京芸術大学教授)、キム ホンシク(明知大学教授)

事由：実直な研究姿勢であり、志も高い。また帰国後も国際的な専門家として活躍を期待する。

H) 第15回日本文化藝術振興賞授賞式典の開催

◇ 開催日 平成20年3月28日(金)

◇ 会場 明治記念館

◇ 来場者数 約200名

◇ 内容 贈呈式、受賞者・受給者の紹介及び、祝宴

I) 賞金の授与・・・贈呈式終了後、4月に指定の口座より振り込む

3. 文化藝術普及活動事業(寄附行為代4条(2)(5)(6)) 【22,102,853円】

(1) 文化祭「杜の中の伝統文化祭」 (15,834,228円)

事業名：創造する伝統「杜の中の伝統文化祭」

主催：財団法人 日本文化藝術財団

監修：川口幹夫(財団法人 日本文化藝術財団会長)

助 成 : 日本財団

開催概要

◎「絵手紙」

日時:平成19年6月14日(木) 10時30分～12時30分

対象:事務局スタッフ、文化祭当日のスタッフ 等

講師:日本絵手紙協会 認定講師 中村弘子先生

会場:日本絵手紙協会 研修室

内容:・消しゴムでらく印作り

・絵手紙を書く

◎「着付け」

日時:平成19年6月1日(金) 15時00分～17時00分

象:事務局スタッフ、文化祭当日のスタッフ 等

講師:日本文化藝術財団 仁木美智子先生

会場:日本文化藝術財団 会議室

内容:自分で着物を着る

◎「聞香」

日時:平成19年6月22日(金) 15時00分～17時00分

対象:事務局スタッフ、文化祭当日のスタッフ 等

講師:香道研究家 伊達晟聴先生

会場:日本文化藝術財団 会議室

内容:香の焚き方と6種類の香木の香りを聞き比べ

◎「川口塾」

日時: プレ開催 平成20年1月8日(火)

第一回 平成20年3月12日(水) 13:00～15:00

第二回 平成20年4月9日(水) 13:00～15:00

第三回 平成20年5月13日(火) 13:00～15:00

会場:日本文化藝術財団 会議室

内容:日本の放送文化を作上げた川口幹夫(元日本放送協会会長／元NHK交響楽団理事長／日本文化藝術財団会長)が、新しいメディアに対するコンテンツの構築の仕方、制作現場が効率良く動けるように監督する方法、日本における公益的なメディアのあり方などについて、自分の半生、仕事を振り返りながら、次の世代に伝える座談会

夏期開催「杜の中の伝統文化祭 一ぜーんぶ体験、粋と雅でつかむ夏」

開催期間:平成19年8月18日(土)・19日(日)

会場:明治神宮(神宮会館・参集殿)※所在地:東京都渋谷区代々木神園町1-1

監修:川口幹夫(日本文化藝術財団 会長/日本放送協会 元会長)

主催:(財)日本文化藝術財団

特別協力:明治神宮

後援:文化庁、東京都、江戸川区、江戸川区教育委員会、江東区教育委員会、葛飾区教育委員会、渋谷区教育委員会、港区教育委員会、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、日本経済新聞社

来場者数:約 3,000 名(開催期間中)

■「こどもの杜」～家族で参加、作って遊べちゃう～

開催日時: 8月18日(土)・19日(日) 10時～16時

会場:参集殿

内容:江戸風鈴の絵付け、江戸木版画の摺りの実演と体験、あめ細工、針金細工、お芝居、みんなで歌おう、沖縄の島歌、貝殻遊び、杜の中の探検など

*浴衣の着付けサポートあり

参加費 無料(一部材料費要)

参加者総数:600名

■「体験の杜」～日本の伝統を体感できちゃう～

開催日時:8月18日(土)・19日(日)13時～16時

会場:明治神宮会館

内容:絵手紙を書いてみよう、夏のお煎茶の味を楽しんでみよう、お抹茶を点ててみよう

参加費:無料(事前申込制 *抽選にてご招待(競争率:約5倍))

参加者総数:約500名

■「杜のステージ」

開催日時:8月18日(土)・19日(日)開場16時 開演16時30分 終演18時

会場:明治神宮会館

出演:18日(土):寿獅子(江戸里神楽若山社中)、笛(一噌幸弘)、雅楽(伶楽舎)

19日(日):津軽三味線(佐藤通弘)、狂言(万作の会)、トンコリ(OKI)

入場料: 無料(事前申込制)

入場者数:のべ約2,000名

秋期開催 宮田まゆみソロコンサート『秋の宴』

開催日時:平成19年9月24日(月・祝)18時30分開場 19時開演 20時終演

会場:明治神宮(雨天会場:参集殿)

主催:(財)日本文化藝術財団

特別協力:明治神宮

後援:京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

出演：宮田まゆみ(笙) 共演：篠崎史子(ハーブ)

参加費：3,000 円

参加者数：180 名

演奏プログラム

雅楽古典	「平調調子」
宮田まゆみ	「滄海」
Gerhard STAEBLER	「Spectre」
Robert HP PLATZ	「線香花火」
John CAGE	「One9」
細川俊夫	「うつろひ」-笙とハーブのための

冬期開催「藝の達人」-伝統芸能、ひと味違う感動がここに-

開催日時：平成 19 年 12 月 16 日(日)13 時 30 分開場 14 時 開演 16 時終演

会場：明治神宮 桃林荘

出演：常磐津一巴太夫(人間国宝)、常磐津巴瑠幸太夫

主催：財団法人 日本文化藝術財団

特別協力：明治神宮 後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

参加費：一般 5,000 円、大学生 3,000 円、高校生以下 1,000 円

参加者数：61 名

演奏プログラム

小夜衣 千太郎 「恨葛露濡衣」 道行より久八意見まで

春期開催「杜の中の伝統文化祭 春の特別プログラム」

* 明治神宮の杜の中で、日本の春の趣を体験。春の草木の息吹を感じながら、畳に座ってお茶とお菓子を頂く。お香を聞く。

開催日時：4 月 13 日(日) 10 時 30 分～7 時 30 分

会場：明治神宮 桃林荘

講師：茶道裏千家、伊達晟聴(聞香)

主催：財団法人日本文化藝術財団

特別協力：明治神宮

後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

参加者数：65 名

(2) 日本音楽公演「音楽のきずなシリーズ第 10 回」

(5,576,857 円)

公演名：「創造する伝統『音楽のきずな—邦楽最前線—』」

主催：財団法人 日本文化藝術財団

後援：明治神宮、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

開催日：平成20年1月25日(金) 午後18時30開演 20時45分終演

会場：国立小劇場

入場料：一般 3000円

大学生 1,000円

動員：440名

○実施概要

邦楽というと、何か古い感じがするし、敷居が高そうで近づけないと思っている方が少なくないと思う。実は私もそうだったが、今回最初に演奏される中能島欣一作曲の「三つの断章」を聞いて、“邦楽は現代も表現できるんだ!”と眼が覚めた。そして邦楽は眠っているわけではなく、邦楽の作品も、もっと私たちの感覚にぴったりした音楽を作り出してきたことを知った。洋学系の作曲家たちも、邦楽の作品ではクラシックのしぼりを越えて自由に表現しているのである。今回はこれらの現代邦楽の傑作を集め、その初演者たちの名演によって“邦楽こそ私たちの音楽”といっていただけるようなプログラムにしたつもりである。(小島美子 パンフレットより)

企画監修:小島美子

舞台監督:清野正嗣 音響:音響プロデュース 永井秀文、(有)オアシス

照明:原昌男 美術:滝善光

プログラム(出演者・演目) お話:小島美子 お相手:川口京子

①箏独奏「三つの断章」

作曲:中能島欣一 演奏:宮下伸

②尺八独奏「鶴の巣籠」

(原曲と現代的演奏の比較) 演奏:中村明一

③箏独奏「翼にのって」

作曲:沢井忠夫 演奏:沢井一恵

④尺八独奏「鶴林」

作曲:広瀬量平 演奏:山本邦山

⑤箏独奏「巫女譜」

作曲:肥後一郎 演奏:友淵のりえ

⑥男性独唱・笛・尺八のための三章「草の祈り」

作詞:蓬萊泰三 作曲:福原徹 独唱:小早川治

笛:福原徹、福原徹彦、福原寛 尺八:善養寺慶介

(4) その他

(691,768円)

○ ホームページ 連載「四季おりおり」20年1月より開始 1日、15日更新

自然豊かな日本で培われた美しい日本文化と、都会にもある美しい季節の写真で構成されたブログを展開することで、「杜の中の伝統文化祭」に来場できなかった人たちにも、web上で日本の四季を提供し続けている。6月13日現在でアクセス数は約1800を記録している。

○ 「文化藝術の会」会員への定期報告